

保育事項としての「観察」に就いて

目白幼稚園 和田 實

幼稚園令が發布された。同時に保育事項の改正があつた。新保育事項として観察が加へられた。

然も観察のみではない。若し保育者が幼児教育上必要を感じるならば、そして夫れが幼児保育の全體に採つて有効のものならば尙此外に適當な保育

事項を加へてもよいと云ふことである。何と云ふ自由な然も保育者を信用し尊敬した法令であらうか。外の教育法令に斯る例があるだらうか。小學校令と云ひ中學校令と云ひ、其學科目の如きは加除添削何れも明かに其範圍を限定して居つて都合のよい自由な科目の添加を許しては居ない。然るに幼稚園には保育者の責任ある教育的考察を信用

し、尊敬して保育事項(或は保育科目と云ふ)の自由な添加を認めて居る。吾人保育事業に従事するものは須らく其尊敬と信頼とに自重して、尊き自由を一層尊く使ひたい。即ち濫用したくないものである。

偕て、新保育事項として加へられた「観察」とは果して何んなことか、其教育的原理は如何、其材料は如何、其保育方法は如何等と聞いて見ると吾れ、人、共に五里霧中の人が存外澤山ある様である。さりとは餘りに吞氣なこと、云はざるを得ぬ抑も現日本幼稚園協會の前身なるフレイベル會が明治四十一年の大會に於て保育事項の改正を文憑

省に建議してより茲に拾有九年(約二十年)爾來、日本幼稚園協會の絶えざる努力の結果に因つて今回遂に觀察は保育事項として加へられた。此絶えざる努力の二十年間保育者の多くは「觀察」と云ふ保育事項に就いて相當研究し且實施して居つた筈である。今回の改正に當り文部省の調査した所であると云ふのを漏れ承つて見ても相當に全国各地の幼稚園では、夫々案を設けて「觀察」を保育事項として行つて居つた様である。唯不審に堪えぬは保母養成所等の保育事業の指導に當る人々の講義や又其使用する教科書中に「觀察」を保育事項として取扱つて居らぬことである。即ち實際の幼稚園の保育には「觀察」を保育事項として取扱つて居る所があつたにも係らず、保育事業の指導者は一向之を保育事項として注意しなかつたと云ふ奇觀を呈した譯である。蓋し、是れが一部の保育者間に一向呑氣な人を生じた所以であらう。夫れは兎に

角として、私は茲に之に關し少しく説明して見やうと思ふ。遠く書を寄せて、質問せられた方や、近く態々質問に來られた方々は、うか御一讀を賜はつて今一度御考察下さつたら一層、思ひ合はされる所があらうと思ふ。

一觀察の意義、觀察と云ふ言葉は一體心理學の學術用語としては、「特に注意せられたる知覺作用」と云ふことで、一向保育事項として取扱ひ得る様な遊戯の種類とは受け取れぬものである。然ればにや、倉橋教授は保育事項として談話、手工唱歌、など、肩を並べることが如何にも不合理である。談話、手工、唱歌、等の保育事項中にも觀察と云ふ働らきは澤山あるもので、是等の心的作用なくしては談話も唱歌も手工も成り立たぬものである。然るに其同様な働き丈を抜き出して、一つの保育事項として取扱ふ様に見えるると云ふて居られる。尤もな事である。「觀察」と云ふ文字を心

理學的に解釋しては斯様に考へざるを得ない。併しながら、保育事項としての「觀察」は必ずしも心理學的字義と同一内容のみを持たせなくても差支なくはなからうか、吾人は寧ろ保育事項としての觀察は心理學上の用語とは別の意義を持たせた方が好くはなからうかと思ふのである。二十年の昔始めて保育事項の改正をフレールベル會が建議した

時にも保育事項としての「觀察」の文字に就いては相當頭を捻つたものであつた。併し、何うも適當な言葉がない。談話や手工や唱歌に並ぶ言葉がない。併し「直觀」でもあるまい「庶物教授」では無論ない。矢張り「觀察」が一番判り易く穩當だらうと云ふので「觀察」の文字を使ふことにした。

同じ遊戯と云ふ文字も幼稚園の保育事項として遊戯と小學校に於ける體操科教材としての夫れとまた幼稚園の保育事項の全部を包含しての遊戯の意義とは必ずしも悉く同一でない。止むを得ない

ことである。是と等しく觀察の字義は心理學上には如何に定義せられ様とも、幼兒教育上の保育事項としては、夫れに係らず別の意義を持つて差支あるまいと思ふ。此意味に於て吾人は保育事項としての「觀察」の字義を新定したい。

觀察は保育事項の一としては遊戯の一種類と見做す可きである。子供は見物することが好きである。いぢくることが好きである。耳を傾けて物音に傾聽する。珍らしいものは、大きな眼で眺め、可愛い手でいぢくり廻はし、叩いて見たり、打つて見たり、果ては口に入れて嚙んでも見れば嘗めても見る。氣に入れば飾つて眺めたり大事にするとして箱にしまつたりする。是れが幼兒の新奇な經驗に對する態度である。研究態度と云はうか、觀察態度と云はうか、實驗態度と云はうか、兎に角、幼兒は斯る經驗を反復することに因つて新たな智識を得、豊富な經驗を蓄積して行くのである。此

蓄積した、新智識經驗は入つては内觀作用に必要な觀念となり出でゝは手工其他の發表的遊戯の材料となるのである。從來の幼稚園は此必要な收得的な經驗的な遊戯を無視して單に發表させるとばかり考へて居つた。入れることなしに出させることは手品師の外は出来ることではない。收得的遊戯を放任して措いて發表的遊戯のみをさせようとした所で、結果の甘く行く筈がない。是が新保育事項の添加された所以であらう。文部省は果して如何なる意義を持たして居るのか判らないが恐らく吾人の考へて居る所と大差はあるまいと思ふ。即ち遊戯の一種類として保育事項の一項としての觀察と云ふのは、新奇な經驗に對する幼兒の觀察欲經驗欲を満足させる所の遊びで、之に因つて幼兒は知覺力、判斷力を練習し、新觀念新經驗を蓄積し後來の發達に資する豊富な資料を收得するのである。

二、觀察の各方面、觀察の文字は動もすれば見ることに重きを置くかの様に見えるが決して、そんなものではない。心理學的に解釋した所で何も見ることはかりに關係しては居らぬ。聞くこと、さへること、かぐこと、味ふこと、皆關係して居る前項にも書いた通り幼兒の新經驗に對するや觀察し、玩弄し、愛撫し、鑑賞し、蒐集し、秘藏するものである。之を仔細に觀察すると凡そ四つの方面に分類することが出来る即ち(一)觀察、(二)實驗(三)鑑賞(四)蒐集である。觀察の四方面とも云ふ可きであらうか。

三、陝義の觀察、茲に云ふ觀察は陝義のものである。聞くこと、が主となるもので、一步進んで手を出して實驗する迄にはならぬ程度のものである。事物の觀察に興味を有し、事物其ものを知らんとするところの遊戯で、初めは刺戟の大なるものに注意し、漸次機械裝置の活動、人の作業

動物の活動自然の現象、天體の變化等に注意し、進みては動植物日常物品等に迄も注意する様になるものである。此遊戯の教育的價值は（一）感覺の發達（二）注意力の發達（三）觀念の増加等にあつて、兒童の心的要素の最初の輸入門たるものである。

四、實驗 見物したり傾聽したばかりでは満足出來ず、手に取つて兎見角視して、仔細に觀察し、更に叩いて音をきき、破いて中を見るなどすれば事物は一層明瞭に會得せられる。斯様に受動的觀察の位置より進んで發動的に手に取りて玩弄し、試験し、分解することを楽しむもので、玩弄することによつて一層深き直觀を得、自己の取扱方如何に因つて、物の動靜、變化（運動、破壊）集散離合等の關係を知ることが出来る。子供には極めて興味あり、且有益なる遊びあること疑ない。其教育的價值としては（一）感覺の發達（二）目と手と

の連絡（三）動的觀念の増加、（四）外界の理解に對する進みたる効果、等は其重なるもので、從來の保育が最も缺陷とされたる部分の補足に役立つものである。

五、鑑賞 子供は氣に入つたものを飾つて喜んだり、人形を喜んだり、お雛様を悦んだり、小さな草花を可愛がつたり、美しき衣服を喜んだり美しき人に親しんだり中々に美しきものに興味を有するものである。此興味を適當に満足させて遣ふことは人生を價值あるものたらしむるに必要のことである。そして美を見るところの審美眼を適當に指導することは教育上大切なことである。教育的價值としては（一）美感同情の發達すること、（二）家庭感情の養はること多きこと（三）技能的發達の基礎を培養すること、（四）人格を圓美ならしむる上に役立つこと等である。

六、蒐集 氣に入つたものを集むることは幼兒

の特に喜ぶことである。何のために集むるか、何の爲めに摘むのか、咲いた花は摘みとることなしに眺めたらよさそうなもの、然も尙摘み集めることが必要なのは幼児の特性である。氣に入つたものは大事なもので、大事なものは深く秘藏する。さて秘藏して何にするか、唯秘藏するのみではあるが秘藏せずには居られぬ。砂利の中の小石を拾ふことに夢中になつたり、摘草や蜻蛉釣りに夢中になるのも皆同じで、斯る経験其ものが得も云はれぬ満足を持ち來たすのである。集め得た結果や獲物其ものは大した價値はないのである。誠に面白い子供らしいものと云はねばならぬ。然も其教育的價値に就いては中々に捨て難き節が多い。(一)

多くの雑物の中より自己に必要なものを拾集することは之を心的作用より觀れば大變な教育的効果齎すものと云はねばならぬ。故元良博士は此注意力練習品をさへ特製して、一般心力の練習に

資せんとした位である。(二)知覺判斷力の迅速なる練習(三)蒐集條件の保持、即ち注意力の持續の練習、等は其重なるものである。

七、材料の蒐集 觀察の材料は實に數限りなく多い。自然界、人事界に亘つて事物と云ふ事物悉くが幼兒には新經驗であり、新知識である。觀察し實驗し鑑賞し、蒐集す可きもの、至る所に存せざるはない。實に材料餘りに多くして却つて其取捨に苦しむ次第であるが、幼稚園の如き具案的豫定的幼兒教育をする所では相當に、各方面に亘つて遺漏なきを期さなければならぬ。然るに此遊びは何も幼稚園に限らず、幼兒の至る所で自由に遊んで居る所であるから、幼稚園の採用する材料が餘りに平凡で幼兒の自由經驗と重複しても却つて興味を薄らげる虞もあるし、旁、幼稚園の材料の蒐集方は中々困難なものである。吾人の實驗するところでは、觀察材料一覽表を作つて置いて、之

に因つて材料を整へ、時に偶然整へられたものを使用して、兎に角一材料を觀察し終つた時は一覽表中に印を付けて其季中に其事項の終つたことを記す様にして行つたらば、徒に一方に偏より或は一方のみ重複する様なことがなくて好からうと思ふのである。次の數表が必要であると思ふ。

(一) 實物及標本、(二) 玩具(三) 工場及作業の實際(四) 繪畫(五) 天體(六) 街上一覽(七) 自分の家他の家(八) 實驗各表の分類法は甚だ科學的でないが是が却つて實際には便利である。徒に分類のみ科學的でも實際に役立たぬものは必要がない。

八、實物及標本 (前后不同に内容のみ記して表の形式を略す以下皆同じ)

櫻、梅、桃、椿、藤、ドングリ、ばら、栗、菊
牡丹、豆の花と實と葉、麥、瓜、稻、柿、あやめ
つゝじ、山吹、ちゆりつぶ、ゆり、朝顔、晝顔、

桔梗猫やなぎ、すゝき、いてふ、とうもろこし。

毛虫、芋虫、蠶、鷄、金魚、蝶、蟬バツタ、猫
犬、オ玉杓子、蟻、雛、龜、目高、蛙、風船虫、
どせう、ガチャく、馬追、とんぼ、やんま、雀
鳩、地虫、鰻、鯉、鮎、蠅、アブ、コホロギ、チ
ヤボ、カマキリ、ミツバチ、鼠、鳶、アヒル、狐
猿、蛇、トカゲ、イタチ、狸、馬牛、石の色々、
金のいろく、氷、雪、霜柱、つら。

九、玩具 具

機械體操、觀覽車、金棒サガリ、五月人形、雛人
形、玉コログシ、自動カブト虫、二人輕業、龍吐
水、噴水、泳ぎ金魚、玉吹上げ、水出し廻り、水
汲上げ、米搗き、起き上り小法師、彌次郎兵衛、
綱渡り、角力人形、電車、汽車、紙風船、コマ、
繪かるた、坂下り、自動猿、自動車、景色廻り、
自動人形、磁石廻し、組重ね、實體鏡、籠鳴鳥雀
飛び、蓄音機、水車、ポンプ、寫真、浮いて來い

萬花鏡、計數器、擊劍使ひ、風琴ゴマ、鬪球ゴマ、

變色眼鏡、廻り活動、鐵道遊び、繪合せ、蛙飛、

鬪球盤、活動寫眞、電鈴、暗箱、眞似笛、曲ゴマ

射的、砂時計、魚釣、廻燈籠、時解、外車汽船、

青寫眞、萬花鏡、水汲し、望遠鏡、顯微鏡、オル

ゴール、玉、玉投げ人形、七巧板、十六眼鏡、電

氣踊、變色ゴマ、双眼鏡。

十、繪 畫

植物畫帖、春の風景畫、風俗畫、虫類畫帖、鳥類

畫帖、蝶類畫帖、略畫帖、桃太郎畫帖、手技圖形

獸類畫帖、舟車畫帖、子供遊戲畫帖、花鳥圖譜、

武者繪圖、魚類畫帖、工人作業圖、蔬菜畫帖、風

景畫帖、水産畫帖、歴史掛圖、地理掛圖、物産圖

譜、交通圖、狩獵圖、兵士操練圖、女禮式畫帖、

萬國々旗圖、時事畫報、

十一、天 體

日、月、星、雲、日蝕、月蝕、録河、彗星、夕燒

朝燒、北斗。

十二、街上所見

人々の服裝と職業、活動のいろく、交通機關、

店々の様子、飾り窓觀察、出來事の色々、商品の

色々、行列參觀。

十三、自分の家と他の家、

家の構造の色々、間敷の色々、家族の種類、庭の

造り方、葬祭行事。

十四、實 験

シヤボン玉、磁石の實驗、靜電氣實驗、惰性の玩

具、寫眞實驗、活動寫眞、風船、ゴム球、霧吹き

十五、園外觀察

お庭物見一、二、三、學校參觀一、二、三、鍛冶

大工、佐官、製紙、土工、下駄屋、靴屋、足袋屋

製絲、ペンキ屋、畫工、看板屋、豆腐屋、植木屋、

飴屋、新粉屋、轆轤細工、旋盤工、竹細工、籐細

工、指物師公園、動物園、摘草、小石拾ひ、ドン

グリ拾ひ、

十六、材料選擇の條件、(一)興味あるものを探れ、如何に有益なりとて子供に興味なきものは何等の價値もない。(二)には季節に相應はしきものを採れ、材料は得易いし、興味も多い。(三)には成る可く多種多様に亘り一方に傾かぬに採ることが必要である。尤も一時に多數の材料を用意せよと云ふのではない。(四)郷土的なる可し、郷土の特長を取入れる爲めと今一つは郷土の偏傾を矯める爲めに、(五)教育最終の目的を考慮して之に統一せんことを努め之に背馳せざる様注意を要す。

十七、觀察の一般方法

小學校の授業と違ふ、理科の教授をするのではない。豫備知識の整理も何もない。子供と材料の準備が整つたら、(一)材料の全部又は一部分づゝ直に提示す可し。提示したならば全部の兒童に充分觀察せしむることが必要である。大きなものなら子

供の位置を動かし、小さなものなら品物を持ち廻はつて、各個に充分に多方の感覺を以て觀察させることである。(二)觀察は一度では充分でない、二度でも三度でも反復することが必要である。

(三)觀察の要旨は子供の觀察反應即ち觀察時に於ける種々なる心狀發表を注意し、之に伴ふて、保育者の賛否の表情を以て或は肯定し或は否定し或は賞勵し或は黙殺してすることに因つて誘導するがよい。特別に注意す可き簡條も成る可く此時に指示するのが便利である。(五)材料の用意充分ならば觀察後改めて一個を渡し、全體を改めて觀察し鑑賞せしむ可し。大事に自宅迄持ち歸つて母親に捧げしむるがよい。

十八、指導上の諸注意、

(一)妄りに干渉す可らず。保育者の或ものは兎角子供に世話を焼き過ぎて、此處を見よ、其處を注意せよ、そうせよこうせよと、有ゆる干渉をす

る。「遊戯は自由」の原則に戻るもので、自立主義を重んずる教育の排斥するところである。殊に材料豊富にして幼児一人に一個を興へ得らるゝときなどは子供同志の刺戟の外、あまり大なる刺戟を興ふることは成る可く遠慮して、幼児が獨自、靜かに觀察し得る様、注意す可し。

(二) 幼兒の質問を歓迎し適當に處理す可し。適當に處理することが困難かも知れないが、是が保育の生命の懸る所である。努力して善處す可しである。兎に角、幼兒の質問に對しては満足する様な答辯を興へることが肝要である。之に因つて幼兒は更に第二第三の質問を起し來る様興起せしめなければならぬ。(三) 觀察の諸點は凡て幼兒の發達程度に副ふて適當の處に止め置く可く、決して程度を超して深入してはならぬ。幼兒の直觀力の届く所に於て満足す可きである。(四) 虫類の實驗は往々にして殘酷なる結果に終ることあらば止む

を得ざることなれども、益虫なるときは成る可く殘酷なる結果に陥らぬ中に放し遣る様にするを要す。玩具類が實驗の最後は漸次破壊せらるゝは止むを得ざることなれども、成る可くは修理して再び元の狀態に歸らしむることが必要である。

(五) 材料の種類に因りては幼兒の嫌ふものあり、衣服其他を汚すことあり、また特殊の器具を要することあり、夫々其特殊の事情に應ずる準備あることが必要である。

(六) 保育者の智識の有るに任かせて新智識を注入教授してはならぬ。觀察は直觀の遊びである。内觀的理法や實驗し得ざる新智識を注入してはならぬ。(七) 園外保育に就いては必ず飲用水と排便に關する用意とを決して忘れてはならぬ。お庭の拜見に出掛けるとしても同様である。

十九、保育事項として「觀察」の位置、最後に觀察の位置に就いて述べよう。

觀察は保育事項としては最も初めに排列す可き性質のものであるが、新幼稚園令には三番目に上げてある。何故に三番目に上げたのかは判らぬが兎に角不似合のものである。觀察は初めにも述べた通り幼児の遊びの最も初めの部分を占め、凡ての経験、觀念智識の入り来る門戸であつて、後の各種の遊戯即ち保育事項の基礎をなすものである

觀察を基礎材料として談話も唱歌も圖畫も手工も出て来るものである。此自然の順序は保育上にも應用す可きである。法令には三番目に書いてあり或書には最後に説いてあつたとしても保育上に於ける「觀察」の位置としては最も初めに來る可きもので、凡ての保育事項の基礎となるものであることは忘れてはならぬ。